

第5節 音 楽

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説音楽編、埼玉県中学校教育課程編成要領及び同指導資料の趣旨及び内容を踏まえ、今回見直された評価の観点の取扱いと、各学校における指導と評価の計画作成及び評価活動の参考となるよう作成した。

2 取り上げた内容

「第1 本資料の活用について」では、本資料の概要と活用にあたっての留意点を示した。

「第2 音楽科における学習評価」では、音楽科における学習評価の基本的な考え方や評価の観点及びその趣旨、評価規準に盛り込むべき事項、評価規準の設定例等を具体的に示した。

「第3 指導と評価の実際」では、学習指導要領の内容に則した学習評価の事例を以下の9例示した。

事例1	声部の役割や全体の響きとのかかわりを理解して音楽表現を工夫する学習を評価する事例	第2学年
	表現 歌唱「ウ」 [共通事項] 旋律 テクスチャ 強弱 (フレーズ 和音)	
事例2	曲想を味わい、曲にふさわしい音楽表現を工夫する学習を評価する事例	第2学年
	表現 歌唱「ア」 [共通事項] リズム 速度 旋律 強弱 (テヌート フェルマータ フレーズ 三連符 <i>pp dim.</i>)	
事例3	曲種に応じた発声 (能) の学習を評価する事例	第3学年
	表現 歌唱「イ」 鑑賞「イ」 [共通事項] 音色 リズム 速度 旋律 テクスチャ (拍 拍子 間)	
事例4	和楽器 (篠笛) の学習を評価する事例	第1学年
	表現 器楽「イ」 [共通事項] 音色 旋律 (音階)	
事例5	リコーダーアンサンブルの学習を評価する事例	第2学年
	表現 器楽「ウ」 [共通事項] 旋律 フレーズ テクスチャ 形式 構成	
事例6	コード進行を基にした旋律づくりの学習を評価する事例	第2学年
	表現 創作「ア」 [共通事項] リズム 速度 旋律 テクスチャ (拍 拍子 音階 和音)	
事例7	音素材の特徴と構成のかかわりを生かした創作の学習を評価する事例	第1学年
	表現 創作「イ」 [共通事項] 音色 リズム テクスチャ 強弱 構成	
事例8	音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して鑑賞する学習を評価する事例	第2学年
	鑑賞「ア」 [共通事項] 音色 リズム 旋律 強弱 構成 (拍子 動機 <i>pp ff</i>)	
事例9	我が国の伝統音楽の特徴を理解して鑑賞する学習を評価する事例	第2学年
	鑑賞「イ」 [共通事項] 音色 速度 (拍 間 序破急 音階)	

これらの事例では、指導と評価の計画の中で具体的な評価方法等を示した。特に、ポイントとなる評価場面では、ワークシート例や評価活動で留意する点等を示した。

また、事例1では、指導と評価の計画の全体を掲載することで、評価活動の一連の流れをとらえやすくした。

評価規準の作成にあたっては、国立教育政策研究所教育課程研究センターの示す「評価規準の作成のための参考資料 (中学校)」を参考にした。

各事例で取り扱った内容のまとまりと評価の観点との関係は右の図に示すとおりである。

3 本資料の活用にあたって

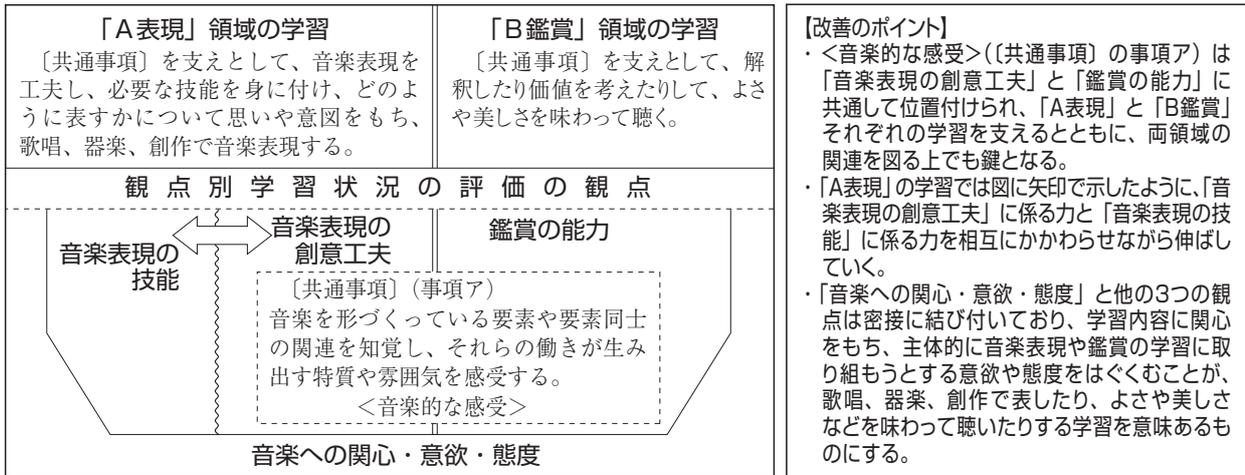
本資料の事例は一例として示したものであり、各学校においては、編成要領、指導資料を併せて活用し、各学校の実態に応じた創意工夫を一層行い、充実した学習評価を行うことが必要である。そのためには、生徒に身に付けさせたい力は何か、その力を身に付けさせるためにどのような学習活動を設定するのか、そしてどの場面で生徒の実現状況を見取るのか等を明確にした上で授業改善を図ることが重要である。その際、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じて、工夫して表現したり、音楽のよさや美しさを味わって鑑賞したりするという一連の過程を重視した指導と評価の工夫が望まれる。

各事例で取り扱った評価の観点

	音楽への関心 ・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の 技能	鑑賞の能力
表現 歌唱	事例1 事例2 事例3	事例1 事例2 事例3	事例1 事例2 事例3	事例3
表現 器楽	事例4 事例5	事例4 事例5	事例4 事例5	
表現 創作	事例6 事例7	事例6 事例7	事例6 事例7	
鑑賞	事例8 事例9			事例8 事例9

第2 音楽科における学習評価

(1) 中学校音楽科の学習指導とその評価（イメージ図）及び改善のポイント



音楽科では、「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」、「鑑賞の能力」、以上4つの観点到学習状況の評価の観点が整理し、生徒の学習の状況の評価していくことを基本としている。（イメージ図参照）これらの評価の4観点は個々に機能するものではなく、常に相互にかかわりあいながら、学習活動の中で機能するものである。

具体的な学習評価に当たっては、多様な評価方法を活用するとともに、一人一人のよい点や可能性、進歩の状況の評価できるよう計画的に行う必要がある。

また、観点別学習状況の評価の評定へ総括することに関しては、学校が、方法や規準等を具体的に定め、評価、評定について、生徒・保護者等に説明できるよう留意する。

(2) 教科目標、評価の観点及びその趣旨

① 評価の観点及びその趣旨

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わって聴いている。

(3) 内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

※〈第2学年及び第3学年のみ表記〉第1学年のみ表記

第1学年〈第2学年及び第3学年〉の評価の観点

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心を〈高め〉 <u>もち</u> 、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、〈ふさわしい〉音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を〈伸ばし〉 <u>身に付け</u> 、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽〈に対する理解を深め、〉のよさや美しさを味わって聴いている。

(4) 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

「A 表現・歌唱」【学習指導要領の内容】

※〈第2学年及び第3学年のみ表記〉第1学年のみ表記

A 表現

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。

ア 歌詞の内容や曲想を〈味わい〉感じ取り、〈曲にふさわしい〉表現を工夫して歌うこと。

イ 曲種に応じた発声〈や言葉の特性を理解して、それらを〉により、言葉の特性を生かして歌うこと。

ウ 声部の役割や全体の響き〈とのかかわりを理解して、〉を感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ること。

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

【「A 表現・歌唱」の評価規準に盛り込むべき事項】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声、言葉の特性、声部の役割や全体の響き〈とのかかわり〉などに関心をもち、それらを生かし〈曲にふさわしい〉音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を〈味わう〉感じ取る、曲種に応じた発声〈や言葉の特性を理解する〉により、 <u>言葉の特性を生かす</u> 、 <u>声部の役割や全体の響き〈とのかかわり〉を理解する</u> などして〈曲にふさわしい〉音楽表現を工夫し、 <u>どのように歌うかについて思いや意図をもっている</u> 。	創意工夫を生かした〈曲にふさわしい〉音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。

【「A 表現・歌唱」の評価規準の設定例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容（歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景や心情、歌詞の成立の背景など）や曲想（その音楽固有の表現や味わいなど）に関心をもち、〈曲にふさわしい〉音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組んでいる。 曲種に応じた発声（我が国の伝統的な歌唱を含む我が国や諸外国の様々な音楽の特徴を表現することができるような発声など）、言葉の特性（言葉の抑揚、アクセント、リズム、子音、母音の扱い、言語の持つ音質、語感など）に関心をもち、それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 声部の役割（音楽の構造におけるそれぞれの声部が果たしている役目など）や全体の響き〈とのかかわり〉に関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を〈味わって曲にふさわしい〉感じ取って音楽表現を工夫し、<u>どのように歌うかについて思いや意図をもっている</u>。 音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、曲種に応じた発声〈や言葉の特性を理解して、それらを〉により、<u>言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている</u>。 音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、声部の役割や全体の響き〈とのかかわり〉を理解して）を感じ取って音楽表現を工夫し、<u>どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 曲種に応じた発声〈や言葉の特性〉により、<u>言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている</u>。 声部の役割〈と全体の響きとのかかわり〉や<u>全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている</u>。

「A 表現・器楽」【学習指導要領の内容】

※〈第2学年及び第3学年のみ表記〉第1学年のみ表記

A 表現

(2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。

ア 曲想を〈味わい〉感じ取り、〈曲にふさわしい〉表現を工夫して演奏すること。

イ 楽器の特徴を〈理解し、〉とらえ、基礎的な奏法を〈生かして〉身に付けて演奏すること。

ウ 声部の役割〈と全体の響きとのかかわり〉を理解して）や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

〔共通事項〕 略

【「A 表現・器楽」の評価規準に盛り込むべき事項】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
曲想、楽器の特徴、基礎的な奏法、声部の役割〈と全体の響きとのかかわり〉や <u>全体の響き</u> などに関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、曲想を〈味わう〉感じ取る、 <u>楽器の特徴を〈理解する〉とらえる</u> 、 <u>〈基礎的な奏法を生かす〉</u> 、 <u>声部の役割〈と全体の響きとのかかわり〉を理解する</u> や <u>全体の響きを感じ取る</u> などして〈曲にふさわしい〉音楽表現を工夫し、 <u>どのように演奏するかについて思いや意図をもっている</u> 。	創意工夫を生かした〈曲にふさわしい〉音楽表現をするために必要な技能を身に付けて演奏している。

【「A 表現・器楽」の評価規準の設定例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> 曲想（その音楽固有の表情や味わいなど）に関心をもち、音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 楽器の特徴（楽器の構造や奏法、その楽器固有の音色や響き、よさなど）に関心をもち、基礎的な奏法（楽器の初歩的な演奏方法など）〈に関心をもち、それを生かして〉で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 声部の役割（音楽の構造におけるそれぞれの声部が果たしている役目など）や<u>全体の響き〈とのかかわり〉</u>に関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、曲想を〈味わって曲にふさわしい〉感じ取って音楽表現を工夫し、<u>どのように演奏するかについて思いや意図をもっている</u>。 音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、<u>楽器の特徴を〈理解し、〉とらえた〈基礎的な奏法を生かした〉</u>音楽表現を工夫し、<u>どのように演奏するかについて思いや意図をもっている</u>。 音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、<u>声部の役割〈と全体の響きとのかかわり〉を理解して）</u>や<u>全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて演奏するかについて思いや意図をもっている</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を生かした〈曲にふさわしい〉音楽表現をするために必要な技能（奏法、呼吸法、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方）を身に付けて演奏している。 楽器の特徴〈、基礎的な奏法を生かした〉を<u>とらえた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法などの技能を身に付けて演奏している</u>。 声部の役割〈と全体の響きとのかかわり〉や<u>全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて演奏している</u>。

「A 表現・創作」【学習指導要領の内容】

A 表現

(3) 創作の活動を通して、次の事項を指導する。

ア 言葉や音階などの特徴を〈生かし〉感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。

イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を〈生かし〉感じ取り、反復、変化、対照などの構成〈や全体のまとまり〉を工夫しながら音楽をつくること。

〔共通事項〕 略

※〈第2学年及び第3学年のみ表記〉第1学年のみ表記

【「A 表現・創作」の評価規準に盛り込むべき事項】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
言葉や音階などの特徴、音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成〈や全体のまとまり〉などに関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫して音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、言葉や音階などの特徴、音素材の特徴を感じ取る、反復、変化、対照などの構成〈や全体のまとまり〉を生かすなどして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。

【「A 表現・創作」の評価規準の設定例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> 言葉や音階などの特徴（言葉の抑揚、アクセント、リズム、音階の構成音によって生み出される独自の雰囲気など）に関心をもち、〈それらを生かし〉音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 音素材（声や楽器の音、自然界や日常生活の中で聴くことのできる様々な音など）の特徴、反復、変化、対照、などの構成〈や全体のまとまり〉に関心をもち、〈それらを生かし〉音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、言葉や音階などの特徴を〈生かした〉感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽で表現したいイメージをもち、音素材の特徴を〈生かし〉感じ取って反復、変化、対照、などの構成〈や全体のまとまり〉を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や音階などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（課題に沿った音の組み合わせ方、記譜の仕方など）を身に付けて簡単な旋律をつくっている。 音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成〈や全体のまとまり〉を生かした音楽表現をするために必要な技能（同上）を身に付けて音楽をつくっている。

「B 鑑賞」

B 鑑賞【学習指導要領の内容】

(4) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを〈理解して〉感じ取って聴き、〈根拠をもって批評〉言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。

イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること。

ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び〈諸外国の様々な〉アジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。

〔共通事項〕 略

※〈第2学年及び第3学年のみ表記〉第1学年のみ表記

【「B 鑑賞」の評価規準に盛り込むべき事項】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわり、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連、我が国や郷土の伝統音楽及び〈諸外国の様々な〉アジア地域の諸民族の音楽の特徴、音楽の多様性などに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを〈理解する〉感じ取る、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて〈理解する〉、我が国や郷土の伝統音楽及び〈諸外国の様々な〉アジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を〈理解する〉感じ取るなどして、解釈したり価値を考えたりし、〈根拠をもって批評〉言葉で説明するなどして、多様な音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

【「B 鑑賞」の評価規準の設定例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素や構造（音楽を形づくっている要素そのものや要素同士のかかわり方及び音楽全体がどのように成り立っているかなど、音や要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有り様など）と曲想（その音楽固有の表情や味わいなど）とのかかわりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 我が国や郷土の伝統音楽及び〈諸外国の様々な〉アジア地域の諸民族の音楽の特徴と音楽の多様性に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを〈理解して〉感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、〈根拠をもって批評〉言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて〈理解して〉、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。 音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、我が国や郷土の伝統音楽及び〈諸外国の様々な〉アジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を〈理解して〉感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

第3 指導と評価の実際

<事例1> 声部の役割や全体の響きとのかかわりを理解して音楽表現を工夫する学習を評価する事例 (第2学年)

1 題材名 声部の役割や全体の響きとのかかわりを理解して表現を工夫しよう

2 題材について (省略)

3 題材の目標

表現の題材では評価の観点「ア」「イ」「ウ」、鑑賞の題材では評価の観点「ア」「エ」で把握することのできる力を意識して目標を設定する。

それぞれの目標の語尾を「○できる」表記にはしない。

- (1) 声部の役割や全体の響きとのかかわりに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら歌う学習に主体的に取り組む。
- (2) 声部の役割や全体の響きとのかかわりを理解し、音楽表現を工夫する。
- (3) 声部の役割や全体の響きとのかかわりを生かして歌うための技能を身に付ける。

4 教材

○「心の中にきらめいて」 田崎はるか 作詞 / 橋本祥路 作曲

関連の深い〔共通事項〕は「・」でつなげて表記することもできる。

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕の関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと
[共通事項] ア	旋律・テクスチャ
イ	フレーズ 和音
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・混声三部合唱のそれぞれの声部の役割を理解する。 ・声部の役割と全体とのかかわりを理解し、表現を工夫をする。 ・全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌う。

6 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	①声部の役割や全体の響きとのかかわりに関心をもっている。 ②音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 本題材で取り扱う学習指導要領の指導事項に対しての関心・意欲・態度の評価規準を設定することが重要であり、挙手や発言の回数で評価するものではない。	①主旋律と自分のパートの役割との関係、強弱を知覚しそれらが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ②声部の役割や全体の響きとのかかわりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。 生徒が知覚・感受し思考・判断する一連の過程をより具体的に把握するために、生徒の考えたことを表出させ教師が見取る工夫をすることが重要である。(ワークシートや発言等)	①声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 「音楽表現の技能」の評価は必ずしも「音楽表現の創意工夫」を生かした表現する場面のみで評価するのではなく、創意工夫を生かすために必要な基礎的な表現の技能の習得に関する評価規準(例 正しい音程やリズムで歌う技能を身に付けている)等を設定することも考えられる。
1時	①	①	
2時		②	①
3時	②		①

- 題材のどの場面での学習評価を行うのかを示す。題材の評価規準で示した番号を該当の時間に示す。
- 1時間の授業での評価場面を本時の目標に即して1~2程度に絞り焦点化を図る。
- 題材の中で学習評価は一つ一つの観点で単独で行うのではなく、それぞれが密接に関わり合いながら行っていくことが重要である。
 - ・観点ア 題材内で2回、意図的に評価する場面を設定することによって、生徒の題材への関心・意欲の高まりがどのようになっているかを見取る。
 - ・観点イ ①と②で知覚・感受を生かした音楽表現の工夫の2種類の評価規準を設定することにより、生徒の目標に対する思考力・判断力と音楽表現の創意工夫の高まりを確認できる。
 - ・観点ウ ①声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現の高まりを見取る。観点イの②との関連も踏まえて評価をしなければならない。

- 学習内容と主な学習活動の区別を明確にし、生徒が主語になるように書く。
- 学習内容…学習指導要領に示されている「内容の事項」のこと。ここでは、「声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解すること」と「表現を工夫すること」の二つが学習内容になる。
- 学習活動…学習内容を知り、学び身に付けるための生徒の活動や行為のこと。

○主語は教師とし、学習内容や主な学習活動に対して具体的な注意点や指導を明記する。

7 指導と評価の計画 (3時間扱い)

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点	☆評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ○斉唱による[A]の部分の表現をする。 ・[A]を全員で歌う。 ○[B]、[C]、Coda のパート練習をする。 ・パートリーダーを中心に姿勢、音程、リズムに気を付けて歌う。 ○[A]ー[B]ーCoda の各声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解する。 ○模範演奏を聴き、[A]ー[B]ーCoda のそれぞれにおける各パートの役割を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次の点に留意して歌わせる。 ・言葉の響きや発音を意識させる。 ・のばす音符や休符の扱いに留意させる。 ・斉唱であることを意識させ、すべての声部が旋律であることを理解させる。 ○正確な音程やリズムで歌わせる。 ○パート練習での学習を生かして合わせて歌わせる。 ○模範演奏を聴き、各声部の役割と全体の響きとのかかわりに注意して聴かせる。 ○[A]ー[B]ーCoda について、主旋律を明確にとらえさせ、主旋律と副旋律の役割について意見交換をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆声部の役割や全体の響きとのかかわりに関心を持ち、主旋律とパートの役割の関係を知覚しそれらが生み出す特質や雰囲気を感じている。 (ア①イ① 活動観察 ワークシート)

評価規準と評価の方法を示す。

<ワークシートの例と評価のポイント①>

- 1 音楽的な特徴を基に全体の響きを感じ取る。
また、それぞれのパートの役割を踏まえて、旋律の特徴を考えよう。

場面	音楽の特徴 全体の響き	ソプラノ	アルト	男声
		旋律の特徴	旋律の特徴	旋律の特徴
A				
B				
C o d a				

- 模範演奏を聴いて、それぞれの特徴を知覚・感受し、ワークシートに記入する。あくまでも音楽を聴いて思考・判断し、全体の響きと各パートの関わりを感じ取る。
- 場面間の変化にも気付かせたい。
- 全体での確認は、実際の音楽と楽譜を用いて音楽の特徴を共有する。

<評価のポイント①>

- 何に注目して聴くのかを明確に生徒に示し、学習内容に即して知覚・感受したことを評価することが重要である。
- 観点イの知覚・感受、思考・判断の評価は、ワークシート等を効果的に使い、生徒の思考・判断の過程を見取ることができる工夫をする。
- この場面での知覚・感受は、各パートの役割を考える上で重要な学習活動になる。
- ◎評価方法例
 - ①活動観察（生徒の聴いている様子や考えている様子、発表内容から評価する。）
 - ②ワークシート（音楽的な特徴や全体の響きを基にそれぞれのパートの役割を知覚・感受できているかを評価する。）

- 2 ○各パートと合体の響きとのかかわりを理解して表現を工夫する。
- ・㊦-㊧- Coda を合わせて歌い、録音する。
 - ・各パートの役割を生かし、また全体の響きとのかかわりを意識しながら歌うには各パートでどのように歌えば良いかを考え、パート練習をする。
 - ・各パートごとに役割を考える。

- 前時の各パートの役割を考えたものを意識しながら歌わせる。
 - 各パートの役割をふまえて、どのように歌えばよいのかを考えさせる。
 - 楽譜で確認しながら練習を進めさせる。その際、次の2点に関して留意させる。
 - ①主旋律と各パートのかかわりを意識しながら、どのように歌えばよいか考えさせる。
 - ・音楽的に○○だから、ここは△△のように歌う。
 - ・音楽的なことについてイメージをふくらませる。
 - ②○○のように歌うためには△△に気をつけて歌う。
 - ・具体的にどう歌うか。音楽表現に関わること。
 - ☆声部の役割や全体の響きとのかかわりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもって歌っている。
- (イ②ウ② 活動観察 ワークシート)

<ワークシートの例と評価のポイント②>

- 2 自分のパートの役割を生かし全体の響きを考えながら歌うにはどうすればよいですか。
- ①場面ごとの音楽の特徴と全体の響きを感じ取り自分のパートの役割を意識しながら考えよう。
 - ②そのためにはどのようなことに気をつけて歌えばよいか考えよう。
- <生徒のワークシート 生徒（男声パート）の記入例>

場面	音楽の特徴 全体の響き	あなたのパートの歌い方（全体の響きを感じ取り、どのように歌えば良いか）	
		イメージすること	具体的な歌い方
A	・3パート全て同じ旋律を歌っている。 (ユニゾン) ・女声と男声は1オクターブの音の高さの違いがある。	・全員で同じ旋律を歌うことで一体感や安心感を感じる。 ・音楽の最初の部分をユニゾンで歌うことによって、これから音楽がだんだんと膨らみ広がっていく展開が期待できる。	・女声の響きをよく聴きながら、同じ音程で1オクターブの音の高さの違いを感じ取りながら歌う。 ・お互いの声をよく聴き合いながら、全体で一つの旋律をていねいに歌うことを意識する。 ・流れるようなメロディなので、フレーズのまとまりを意識して歌う。
B	・3パートのリズムは一緒である。 ・音程は3パート違うが、途中でユニゾンになり、また分かれる。	・ユニゾンから3声のハーモニーに移り変わる部分で音楽が広がっていくイメージがある。全体に音楽が広がって大きくなっている。	・女声とリズムは同じなので、拍やリズムを感じながら、女声をよく聴きながら歌う。 ・主旋律よりも音が高くなる部分があるので、目立ちすぎないように強弱や声の音色に気をつけて歌う。
C o d a	・長い音価の音符が多くなり、曲の終わりに向かっていく感じになっている。 ・男声パートがテノールとバスに分かれ、全体の響きが重厚になっている。	・楽曲のクライマックスの部分で、最も音楽が盛り上がり、強弱も最も強くなる。 ・速度が最後に向かってだんだん遅くなり、曲の終わりをより一層盛り上げている。	・男声パートが二つに分かれて、より幅広いハーモニーを意識して、全体の響きの広がりを感じながら歌う。 ・音価が長い音符を大切に歌い、全体の響きをよく聴きながら、自分の声を全体の響きの中に混ぜ合わせるように、強弱と声の音色に気をつけながら歌う。

- 場面ごとの「音楽の特徴」「全体の響き」を知覚・感受させ、自分のパートの役割を意識させることが重要である。
- 曲想や音楽の構造から楽曲に対するイメージできることを記入させる。
- 表現の工夫をどのようにし、また、具体的にどのように歌っていかればよいのかを思考・判断させる。

<評価のポイント②>

- 前時で知覚・感受したことを基に、各声部の役割と全体のかかわりを理解しているか。また、それを生かすにはどのように歌い、曲にふさわしい音楽表現の工夫をしたかという本題材での核となる評価である。
- ◎評価方法例
 - ①活動観察（パート内で自分の意見を音楽的な用語や記号を用いて発言できているか、実際にそれをやろうとしているかを評価する。）
 - ②ワークシート（音楽的な特徴と全体の響きを感じ取り、それを自分のパートの役割を踏まえながら具体的な歌い方を思考・判断しているかを評価する。）

- 3 ・全員で合わせて歌う。
- Cの旋律のもととなった曲の聴取をする。
・ベートーヴェン作曲 ピアノソナタ第8番「悲愴」第2楽章を聴取る。
- パート練習で学習したことを意識して歌わせる。
- 聴取の観点として①曲のイメージ②強弱を明確に示し、聴取後①②のポイントからワークシートに記入させる。
- 表現を工夫するために知覚・感受する場面であり、鑑賞の能力を見取る場面ではない。
- グループに分かれてCの表現について意見を出し合いながら表現の工夫をする。
- リーダーを中心に、グループ内で話し合いを含めた練習をさせる。
○悲愴で聴取した曲のイメージや強弱をもとに、強弱の表現の工夫をさせる。
○音楽的な特徴と全体の響きとのかかわりに留意し、表現を工夫させる。
☆音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。
(ア② 活動観察 ワークシート)

<ワークシートの例と評価のポイント③>
3 「悲愴」2楽章を聴いて、①曲のイメージと②強弱の特徴を書こう。
<生徒のワークシート例>

曲のイメージ	強弱の特徴
<ul style="list-style-type: none"> ・悲愴という題名を聴いて、最初は暗い曲なのかと思っていたら、とても温かいぬくもりを感じる曲だった。 ・横の旋律の流れと、和音の響きがとても合っていて、聴いてとても心地よかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の特徴はゆったりとしていて順次進行で音が高くなっていく部分は、だんだん盛り上がるようにクレッシェンドしており、音がだんだん低くなる部分はデクレッシェンドしている。

○聴取したことを自分たちの演奏につなげていく場面である。感じたことを実際に自分たちの合唱の中でどのように強弱を生かしていけばよいかを考えさせる。
○具体的にどのように歌えば自分たちがイメージする、強弱が生かされた音楽表現になるのかを考えさせる。

♪ 悲愴の曲のイメージを生かし、強弱を工夫してCの部分はどのように歌ったらよいか？

場面	音楽の特徴 全体の響き	あなたのパートの歌い方 (全体の響きを感じ取り、どのように歌えば良いか)	
		イメージすること	具体的な歌い方
C			

<評価のポイント③>
○題材内での関心・意欲がどのように変化しているのかを見取る。
○音楽表現を工夫して歌う活動に主体的に取り組んでいるかというものであり、ア①よりも生徒の意欲・関心が高まっていることが重要である。
◎評価方法例
①活動観察（原曲から聴取したものを自分たちの演奏に生かそうとしているかを評価する。）
②ワークシート（悲愴の2楽章を聴き、曲想を感じ取り、自分たちの演奏に生かしているかを評価する。）

- グループごとのCの部分の表現の工夫を共有する。
・グループごとにCの部分の発表をする。
- グループで工夫した点を述べてから発表させる。
☆声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。
(ウ② 活動観察)

<ワークシートの例と評価のポイント④>
4 パートの役割、他のグループの発表を聴いて気付いたことや新たに発見したことを書こう。
また、自分たちの班に生かせることは何ですか。
<生徒のワークシートの記入例>

新たな発見	実際にどのように歌うか
<ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表を聴いて、重要だと感じたのは各パートが合わさった時のそれぞれの強弱のバランスの大切さです。音程もちろん重要ですが、全てのパートが全て同じ強さで歌っていればよいというものではなく、場所によってそれぞれのパートが強弱の工夫をしなければいけないんだなと思いました。 ・ソプラノ→男声→アルトの順に強弱の強い順になっている班の演奏が最もバランスがよく、きれいなハーモニーになっていました。 ・お互いの声をよく聴くことが最も重要で、常に一緒に会話をしながら音楽を創っていくような気持ちで合わせて歌うことが大切だと感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のパートの声をよく聴き、全体の響きのバランスを感じ取り、声の強弱を工夫して歌う。 ・全体の響きをよく聴いて、声の音色を工夫して歌う。明るくきれいに調和する声で歌う。 ・大きい声で歌うというより、たくさん息で幅広い太いイメージの声で歌う方が、より全体の響きが美しくなるので、息の流れを意識しながら歌う ・とにかく、全体の響きを感じ取り、お互いの声を聴き合いながら、合わせて歌うことを意識する。

○各パートがそれぞれの旋律を同時に歌うだけでなく、各パートの役割を生かして、全体の響きを感じ取りながら歌うことがとても重要であることに気付かせたい。

<評価のポイント④>
○題材のまとめとして、小集団の中で一人一人の活動を丁寧に観察し、音楽表現の技能が身に付いているかを評価する。
◎評価方法例
活動観察①思考・判断したことを意識して歌っているか。
②自分の思いや意図をもって歌っているか。

- 思いや意図をもって合わせて歌う。
- 声部の役割と全体の響きとのかかわりに留意し、表現を工夫しながら合唱させる。

<事例2> 曲想を味わい、曲にふさわしい音楽表現を工夫する学習を評価する事例 (第2学年)

1 題材名 情景を想像して表現を工夫しよう

2 題材について (略)

3 題材の目標

- (1) 歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。
- (2) 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもっている。
- (3) 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うための技能を身に付ける。

4 教材

「夏の思い出」 江間章子作詞 中田喜直作曲

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕の関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱ア 歌詞の内容や曲想を味わい、表現を工夫して歌うこと。		
〔共通事項〕ア	リズム 速度	旋律	強弱
イ	テヌート フェルマータ	フレーズ 三連符	PP dim.
具体的な学習活動	・歌詞の内容やリズムによって曲想を味わい、旋律にふさわしい速度や強弱等の表現を工夫して歌う。		

6 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	①曲想と歌詞の関係に関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①旋律の動きや歌詞の内容から強弱や速度を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じている。 ②曲にふさわしい表現を工夫するためにどのように歌ったらよいか、思いや意図をもっている。	①歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かした音楽表現をするために必要な発声や言葉の発音などの技能を身に付けて歌っている。
1時	①	①	
2時		②	①

7 指導と評価の計画 (2時間扱い)

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
1	○旋律と歌詞から曲想を味わい、表現の工夫を考える。 ・範唱を聴き曲全体を確認する。 ・旋律とリズムに注意し全員で歌う。 ・作曲者の思いと尾瀬について知る。 ・曲想にふさわしい表現記号を記入する。	○旋律の動きや楽譜中の記号などに注意して聴かせる。 ○音程とリズムに気を付けて歌わせる。 ○尾瀬の情景等の視覚資料等を用い、曲の雰囲気を感知取らせる。 ☆曲想と歌詞の関係に関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(ア①演奏観察) ☆旋律の動きや歌詞の内容から強弱や速度を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じている。(イ①ワークシート)
2	○歌唱表現を工夫する。 ・歌詞の表す情景を想像する。 ・旋律の動きに着目する。 ・表現を工夫して歌唱する。	○前時の思いや意図を確認しながら歌唱させる。 ☆曲にふさわしい表現を工夫するためにどのように歌ったらよいか思いや意図をもっている。(イ② ワークシート) ☆「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かした音楽表現をするために必要な発声や言葉の発音などの技能を身に付けて歌っている。(ウ①活動観察ワークシート)

○歌詞の内容や旋律の動きからどのような強弱、どのような速度で歌ったらよいかを楽譜の□に記号で記入しよう!

○強弱や速度記号を付けた理由を□に書こう!

<評価のポイント>

《評価場面》 歌唱の表現を工夫する意図や方法を具体的に楽譜に書き込み、それを生かして歌う。

- ・記入した強弱、速度等の記録をもとに、楽譜の下段に具体的なイメージや歌い方を書き込みながら練習する。
- ・工夫した表現と意図が聴き手に伝わるように、発声の仕方、ブレス、強弱記号の表現の仕方、表情、アクセント、言葉の抑揚などのポイントを提示し、具体的に練習する。

・互いの発表を聴き合う。

＜事例3＞ 曲種に応じた発声（能）の学習を評価する事例 （第3学年）

1 題材名 能の謡にチャレンジしよう

2 題材について（略）

3 題材の目標

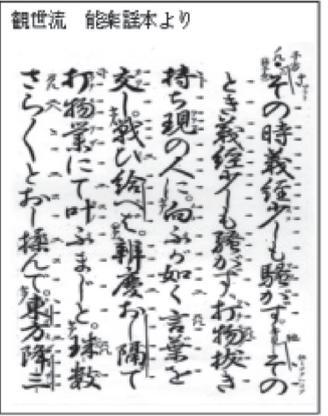
- (1) 能の謡の言葉の抑揚、リズム、子音・母音の語感などに関心を持ち、それらを生かして歌う学習に主体的に取り組む。
- (2) 声の出し方の特徴を感じ取り、どのように歌うのかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫する。
- (3) 曲種に応じた発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために、言葉の発音、呼吸法などの技能を身に付ける。
- (4) 能と狂言の関わりや時代背景を理解し、それぞれのよさや美しさを味わっている。

4 教材

- ・能「船弁慶」（「その時義経少しも騒がず～数珠さらさらとおし揉んで」の部分）
- ・校歌能版（校歌を能の謡のように編曲したもの）
- ・狂言「棒縛り」

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕の関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。 鑑賞イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること。		
〔共通事項〕ア	音色	リズム・速度	旋律・テクスチャ
イ		拍 拍子 間	
具体的な学習活動	・能の謡の発声の特徴を感じ取る。	・ツヅケのリズムを打ちながら、校歌や能の謡を習得する。 ・能や狂言の所作を鑑賞することで、間を味わう。	・小鼓や掛け声との関わりを感じ取って歌う。



能「船弁慶」楽譜

6 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①能の謡の言葉の抑揚、リズム、子音・母音の語感などに関心を持ち、それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①能の謡の声の特徴や雰囲気を感じながら、どのように歌うかについて思いや意図をもってしている。	①能の謡の雰囲気表現するために必要な発声、言葉の発音、呼吸法等の技能を身に付けて歌っている。	①能と狂言の関わりや時代背景を理解し、それぞれのよさや美しさを味わって聴いている。
1時		①	①	
2時	①			①

7 指導と評価の計画（2時間扱い）

	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
1	<p>○「その時義経～数珠さらさらとおし揉んで」の素謡（舞も囃子もなく、謡のみで演ぜられる形式）から能の謡の特徴を聴き取る。</p> <p>母音の伸ばし方を点(・)で、音程の動きを曲線で記入しよう。 また、声の出し方にどんな特徴を感じましたか。</p> <p>ワークシート例 そのときよしつねすこしもさわがず</p> <p>・どのようにすれば能楽師のような声になるのかを考え、試行錯誤しながら実際に声を出す。</p> <p>【生徒の工夫の例】 言葉をつなげて。おなかから。母音に余韻を持たせる感じ。息を長くもたせる。口をしっかりと動かす。母音に息を混ぜて揺らす。</p>	<p>○母音の伸ばし方と音程がどのようにになっているのかに着目させる。</p> <p>【生徒の記述の例】地を這うような声。地声。お経のような声。あまり音の高さが変わらない。</p> <p>【評価のポイント】知覚・感受した謡の特徴とどのようにすれば表現できるのかを関連させて、自分なりに考えて創意工夫している点を見取るようにする。</p> <p>☆能の謡の声の出し方の雰囲気を感じながら、どのように歌うのかについて思いや意図をもってしている。 (イ① ワークシート)</p> <p>☆能の謡の雰囲気表現するために必要な発声、言葉の発音、呼吸法等の技能を身に付けて歌っている。 (ウ① 活動観察)</p>
2	<p>○校歌能版を謡う。 ・合いの手も入れて、能の雰囲気味わいながら演奏する。</p> <p>○能と狂言を比較して、それぞれの音楽の特徴から音楽の多様性を理解し、よさや美しさを味わって聴いている。 ・能「船弁慶」の鑑賞をする。 ・狂言「棒縛り」を鑑賞する。</p>	<p>○「船弁慶」で学習した歌い方を生かして歌うようにさせる。</p> <p>☆能の謡の言葉の抑揚、リズム、子音・母音の語感などに関心を持ち、それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 (ア① 活動観察)</p> <p>○子方や、地謡の役割、使われる楽器の名前、時代背景、登場人物、能と狂言が同じ舞台で行われること等に触れさせる。 ☆能と狂言の関わりや時代背景を理解し、それぞれのよさや美しさを味わって聴いている。 (エ① ワークシート)</p>

<事例4> 和楽器（篠笛）の学習を評価する事例（第1学年）

1 題材名 篠笛の美しい音色を感じて表現しよう

2 題材について（略）

3 題材の目標

- (1) 篠笛の美しい音色や奏法に関心をもち、主体的に練習に取り組む。
- (2) 篠笛の美しい音色や音の揺れを味わって、音楽表現を工夫する。
- (3) 篠笛の息の出し方や、運指などの基礎的な奏法を身に付ける。

4 教材

- ・夕やけこやけ
- ・篠笛用に編曲されたわらべうた
- ・篠笛による演奏（「夕やけこやけ」「さくら」）

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動

指導事項	器楽イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。	
〔共通事項〕ア	音色	旋律
イ		音階
具体的な学習活動	・篠笛の構え方や息の出し方、運指などの基礎的な奏法を理解し、表現する。	・音階の特徴を感じ取り、曲のイメージにふさわしい表現を工夫する。

6 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
評価規準	①篠笛に関心をもち、練習に主体的に取り組んでいる。	①篠笛固有の音色や打ち指による音の揺れを味わいそれらをどのように演奏するかについて、思いや意図をもっている。	①篠笛の運指などの基礎的な奏法や打ち指などの初歩的な奏法を身に付けて演奏している。
1時		①	①
2時	①		

7 指導と評価の計画（2時間扱い）

	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
1	<p>○篠笛の基本的な奏法を学習する。 ・「夕やけこやけ」を篠笛で演奏する。 ○打ち指の奏法を知覚し、演奏法を考える。</p>  <p>・「夕やけこやけ」をリコーダーの演奏と篠笛の演奏を聴きくらべる。 ・同じ音が連続している時の音の様子から、篠笛ではどのように演奏しているのかを推測し、実際に音を出して試す。 ・篠笛を演奏している様子を視聴し、奏法を確認する。</p>	<p>○楽譜の見方と運指の指導だけでなく、演奏中の基本的な姿勢が音にも影響することにも注意させる。</p> <p>○同じ音が連続している部分に着目させ、音の揺れるタイミングに注意させる。 ○篠笛はすべてタンギングをしていないことを確認させる。 ☆篠笛固有の音色や打ち指による音の揺れを味わい、それらをどのように演奏するかについて、思いや意図をもっている。（イ①ワークシート演奏観察）</p>
<p><評価のポイント> 生徒が知覚した内容（例「同じ音がつづいているのに、微妙に音程が変わっている」「音と音の間に一瞬違う音が聞こえる」）と奏法をどう関連付けているかを見取ることが大切である。ワークシートの内容と演奏の両方で確認する必要がある。</p>		
	<p>○打ち指の基本的な奏法を学習する。 ・打ち指を用いて練習する。 ・打ち指の奏法を用いて「夕やけこやけ」を演奏する。</p>	<p>○打ち指をするタイミングは、音の出るときより少し前に指を離して、その音が出るときにまた指を戻し、ひとつ上の違う音が入ることを確認させる。 ☆篠笛の運指などの基礎的な奏法や打ち指などの初歩的な奏法を身に付けて演奏している。（ウ①演奏観察）</p>
2	<p>○篠笛の演奏の特徴を知覚する。 ・篠笛による「わらべうた」の演奏を聴き、篠笛固有の音色や微妙な音程の揺れを聴き取る。 ○打ち指の基本的な奏法を身に付ける。 ・鑑賞した「わらべうた」から1曲を選択し、練習する。 ・音色、音程の揺れ等の篠笛の特徴を生かした表現を練習する。 ・発表会を行う。</p>	<p>○打ち指で学習した音程の揺れや息の雑音が混じることなど、篠笛の特徴に気付かせる。 ○音を出すだけで精一杯の活動にならないよう、各生徒が容易に演奏できる曲を選択させ、篠笛らしい演奏ができるようにさせる。 ☆篠笛に関心をもち、練習に主体的に取り組んでいる。（ア①演奏観察）</p>

<事例5>リコーダーアンサンブルの学習を評価する事例 (第2学年)

1 題材名 アルトリコーダーアンサンブルを楽しもう

2 題材について (略)

3 題材の目標

- (1) 声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心を持ち、演奏表現を工夫しながら主体的に取り組む。
- (2) 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、曲にふさわしい音楽表現を工夫する。
- (3) 声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かして演奏するための演奏技能を身につける。

4 教材について

「星の世界」(コンヴァース作曲/浦田健次郎編曲)

5 学習指導要領の指導事項と【共通事項】の関連及び具体的な学習活動

指導事項	器楽ウ 声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。	
〔共通事項〕ア	旋律・テクスチャ	形式・構成
イ	フレーズ	
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・フレーズのまとまりをとらえる。 ・フレーズを意識して、旋律の特徴を生かした表現を工夫し、演奏する。 ・他の旋律と関わりながら、曲想を感じ取って表現を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二部形式の音楽を理解し、音楽のまとまりを工夫する。 ・声部の役割と全体の響きとのかかわり理解して、曲にふさわしい音楽表現を工夫していく。

6 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	①ハーモニーに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現の工夫に主体的に取り組んでいる。	①各声部のフレーズを感じ取り、どのように音楽表現を工夫するか、自分の思いや意図をもっている。 ②全体の響きとのかかわりから二部形式のbの部分(3段目)の雰囲気を感じ、各声部ではどのように演奏したらよいか思いや意図をもっている。	①声部の役割を生かした音楽表現をするために必要な奏法や息の使い方を身に付けて演奏している。
1時	①	①	
2時		②	①

7 指導と評価の計画 (全2時間)

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「星の世界」を合わせて演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・パート練習をする。 ・全員で合わせて演奏する。 ○各グループで「星の世界」を合わせて演奏する。 ○「星の世界」の表現を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・フレーズのまとまりを意識して演奏する。 ・それぞれのフレーズの表現の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な運指や奏法に注意しながら演奏させる。 ○読譜や運指で分からないことがあれば、適宜指導する。 ☆ハーモニーに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現の工夫に主体的に取り組んでいる。(ア① 活動観察) ○音楽の流れの中で自然に区切られる部分に気付かせる。 ○ブレスの位置や旋律の動きなどから、ふさわしいスラーやタンギング、息の使い方などを工夫させる。 ☆各声部のフレーズを感じ取り、どのような演奏で表現に工夫をさせたか、自分の思いや意図をもっている。(イ① ワークシート)
<p><評価のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ○楽譜にフレーズのまとまりが見えるように書き込ませる。 ○それぞれのフレーズの特徴が表現できるアーティキュレーションを書き込ませる等が考えられる。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ○二部形式の特徴を生かした表現を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・二部形式の構造に気付く。 ・全体の響きとかわらせながら二部形式のb 	<ul style="list-style-type: none"> ○「星の世界」がaa' ba' の二部形式であることを理解させる。 ○二部形式のbの部分の曲想の変化を知覚させ、その雰囲気が表現できるよう、工夫をさせる。

の部分の表現の工夫する。

☆全体の響きとのかかわりから二部形式のbの部分（3段目）の雰囲気を感じ、各声部ではどのように演奏したらよいか思いや意図をもっている。
(イ② ワークシート)

【評価の工夫】

二部形式のbの部分を取り上げ、声部の役割とその表現の工夫をする。

〔ワークシートの設定例〕

- ①息の使い方やタンギングは、どのようにしたらよいか考えよう。
- ②全体の響きと各パートの役割を考えて、どのような演奏を心がけたらよいかと思いますか。



- ・各パートにふさわしい息の使い方や響き、奏法、アーティキュレーションを探す。
- ・各声部どうしのかかわり合いを意識して演奏する。
- ・各パートの響きやアーティキュレーションに注意して、より美しい三重奏になるように練習する。

- いろいろなアーティキュレーションを実際に音を出しながら試行錯誤させる。
- 声部り役割を意識させる。
- ☆曲想を生かした曲にふさわしい奏法や息の使い方を身に付けて演奏している。
(ア② 活動観察)

<事例6> コード進行を基にした旋律づくりの学習を評価する事例 (第2学年)

1 題材名 コード進行を基にして旋律をつくろう

2 題材について (省略)

3 題材の目標

- (1) コード進行を基にした旋律づくりに主体的に取り組んでいる。
- (2) コード進行を基にして、自己のイメージに合わせて旋律を工夫する。
- (3) コード進行を基にして、旋律をつくる技能を身に付ける。

4 教材について

「カノン」 パッヘルベル作曲

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕の関連及び具体的な学習活動

指導事項	創作ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること	
〔共通事項〕ア	リズム・速度	旋律・テクスチャ
イ	拍 拍子	音階 和音
具体的な学習活動	・拍、拍子を理解し、自己のイメージをもち、リズムや速度を工夫して、旋律をつくる。	・コード進行を基に、自己のイメージをもち、音のつながり方を工夫して旋律をつくる。

6 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	①コード進行と旋律のかかわりに関心をもっている。 ②コード進行を基にした旋律づくりに主体的に取り組んでいる。	①コード進行と旋律のかかわりを知覚・感受している。 ②コード進行を基にして、音のつながりやリズムを工夫して自己のイメージに合わせて旋律づくりを工夫している。	①つくった旋律を楽譜に記譜する技能を身に付けている。 ②コード進行を基にして、旋律をつくるための技能を身に付けている。
	○創作の評価については、思考・判断し、試行錯誤しながら旋律をつくるのが重要であり、評価の観点イとウを同時に評価をすることが必要となる場合が多い。		
1時	①		①
2時		①	②
3時	②	②	②

7 指導と評価の計画（3時間扱い）

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ○拍子に合わせて、リズム創作をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な音を組み合わせ、リズム創作をする。 ○同じコード進行で旋律の違う曲を聴き、音楽の共通点を考える。 ○C、F、G、Cのコードに合う音を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1小節のリズムをつくり、学級全体でリズム打ちをしたり、リズム打ちのリレーをしたりして、様々なリズムに慣れることができるようにする。 ○「カノン」（パッヘルベル作曲）のコード進行と同じ曲を3曲聴かせ、コード進行が同じ事に気付かせる。 ○コード進行が同じなのに、リズムや速度、旋律が違くと曲の雰囲気が異なることに気付かせる。 ○キーボードを使い、試行錯誤しながらコードに合う音を考えさせる。 ☆コード進行と旋律のかかわりに関心をもっている。 (ア①活動観察 ワークシート)

<ワークシート例と評価のポイント①>

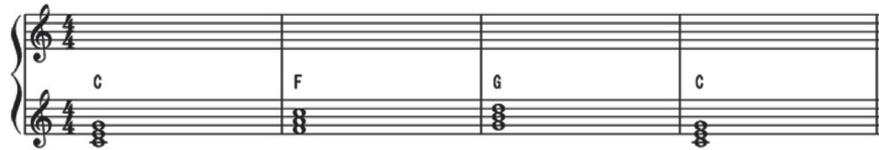
1 これから3曲の音楽を聴きます。3曲にはある共通点があります。それは何でしょうか

音楽	音楽的な特徴	音楽の共通点は？
①		
②		
③		

○題材の最初の評価である。この場合は導入でもあるので、生徒が知っている曲や好きな曲をジャンルにかかわらず示し、関心・意欲を高めたい。
<楽曲例>・空も飛べるはず（スピッツ）
◎評価方法例・活動観察、ワークシート（コード進行が同じ曲でも旋律が違くと曲の雰囲気が大きく変わることに関心をもっているかを評価する。）

○コード進行が同じでも、旋律によって全く音楽の雰囲気が違うということを知覚・感受した後の活動になる。
○キーボードを使いながら試行錯誤してコードに合う音を選んでいく。
◎評価方法例・ワークシート（試行錯誤しながら、和音構成音を使用すればよいことに気付いているかを評価する。）

2 次のコード進行に合わせて旋律をつくります。それぞれのコードに合う音を見つけよう。



2	<ul style="list-style-type: none"> ○コード進行に合わせて、コードの構成音のみを使用して旋律をつくる。 ・C→F→G→Cのコード進行に合わせて和音の構成音のみで旋律をつくる。 ・リズムは自由に旋律をつくる。 ・五線譜に書きながら旋律をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○キーボードで音を確認しながら、和音の構成音のみを使って旋律をつくらせる。 ○二人一組になり、一人はキーボードでコードを全音符で弾き、もう一人がリコーダーで旋律を吹きながら旋律をつくらせる。 ○リズムをどうすればよいか分からない生徒には、リズム創作での例を提示し参考にさせる。 ☆つくった旋律を楽譜に記譜することができる。 (ウ① 活動観察 ワークシート)
---	--	---

<ワークシート例と評価のポイント②>

3 和音構成音を使ってコード進行に合わせて旋律をつくらう。

<生徒のワークシート記入例>



○和音構成音のみを使って旋律創作をさせる。1小節の拍数やリズムに気を付けて旋律をつくらせる。今後、自己のイメージに合わせて工夫して旋律をつくる活動を主体的に進めさせるための記譜の技能の習得の場面である。
◎評価方法例・ワークシート（正しい音価やリズムで記譜をする技能を身に付けているかを評価する。）

○コード進行に合わせて、コードの違いや特徴を生かし、工夫して旋律をつくる。
 ・和音構成音だけでなく、順次進行や跳躍進行を使って、旋律をつくる。
 ・和音構成音以外の音を使うにはどうすればよいか考える。

○二人一組になり、一人がキーボードでコードを全音符で弾き、もう一人がリコーダーで旋律を吹きながら、試行錯誤して旋律をつくらせる。
 ○和音の構成音でつくった旋律も参考に順次進行や跳躍進行等も使い、自己のイメージを実際に旋律で表すには、どのようにすればよいかを考えさせる。
 ○自己のイメージと音楽を形づくっている要素（音のつながり、リズム）とを関連させながら、旋律をつくるようにさせる。
 ☆コード進行と旋律のかかわりを知覚・感受している。
 （イ① 活動観察 ワークシート）
 ☆コード進行を基にして旋律をつくるための技能を身に付けている。
 （ウ② 活動観察 ワークシート）

3 <ワークシート例と評価のポイント③>

4 次の2つの進行（音のつながり）を聴き、感じ取ったことを書こう。
 <生徒の知覚・感受のワークシートの記入例>

進行の種類	旋律の特徴を書こう	どんな感じがするかな どんな音楽効果があるかな
順次進行	・隣り合った音につながる。	・なめらか ・安心する ・心地よい ・音楽が流れる感じがする
①上行進行	・隣り合った高い音につながる。	・気持ちが高ぶっていく。 ・音楽が盛り上がっていく。
②下行進行	・隣り合った低い音につながる。	・落ち着いていく。 ・終わりに向かう感じ。
跳躍進行	・隣り合った音以外の音につながる。	・緊張感がある。 ・急に音楽の流れが変わる。 ・音の跳躍が大きければ大きいほど音楽に変化が生まれる。

○コード進行の中で、順次進行や跳躍進行の特徴や効果を知覚・感受し、自己のイメージに合わせてどのように旋律をつくれればよいかを感じ取っている。
 ◎評価方法例
 ①活動観察（発言内容）
 ②ワークシート内容
 これらの知覚・感受したことを、自己のイメージに合わせてコード進行を基に旋律をつくらせているかを評価する。

・それぞれのグループでつくった旋律を発表し、作品について意見を出し合う。

○いくつかのグループの作品を自己のイメージと音楽的な工夫を結びつけて発表させる。
 ○実際の音楽と旋律の音のつながりやリズムの関連に注目して発表し合い、お互いに意見を出させる。
 ○他者の作品のよさを認め合い、より自己のイメージに合った作品にするにはどうすればよいかを具体的に考えさせる。
 ☆コード進行を基にした旋律づくりに主体的に取り組んでいる。
 （ア② 活動観察 ワークシート）
 ○出された意見やアドバイス、分かったことを生かして工夫して旋律をつくらせる。
 ☆コード進行を基にして、音のつながりやリズムを工夫して自己のイメージに合わせて旋律をつくらせている。
 （イ②ウ② 活動観察 ワークシート）

<ワークシート例と評価のポイント④>

5 二人で次の事項について話し合いながら旋律をつくらう。
 ○音楽的にどのようなイメージをもって表現したいのかを考えよう。
 〈例〉○○のような曲にしたいので、音のつながりを△△のように工夫しました。
 ○○のような曲にしたいので、リズムを△△のように工夫しました。
 <生徒のワークシートの記入例>

全体的になめらかに流れるようにし、3小節目で一番盛り上がり、最後は落ち着いた感じの曲にしたいので、曲の前半は順次進行を使い、3小節目で上行進行で最高音につなげ、最後は下行進行にして旋律を工夫しました。

6 「自分たちのイメージ」と「音のつながりやリズム」をかかわらせて旋律をつくらう。
 <生徒のワークシートの記入例>



○コード進行の中で、順次進行や跳躍進行の特徴や効果を知覚・感受し、自己のイメージに合わせてどのように旋律をつくれればよいかを感じ取り旋律を工夫してつくっている。
 ◎評価方法例
 ①活動観察（発言内容）
 ②ワークシート内容
 これらの知覚・感受したことを、自己のイメージに合わせてコード進行を基に旋律をつくらせているかを評価する。旋律のよさや美しさを評価するのではなく、学習内容を踏まえ、自己のイメージと旋律を関連させていることが重要である。

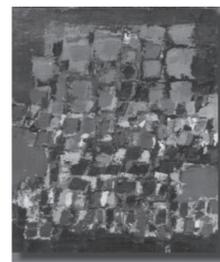
＜事例7＞ 音素材の特徴と構成のかかわりを生かした創作の学習を評価する事例 （第1学年）

- 1 題材名 様々な音素材を取り入れて音楽を創ろう
- 2 題材について（略）
- 3 題材の目標

- (1) 表現したいイメージをもち主体的に学習に取り組む。
- (2) 音素材の特徴を感じ取り、音素材を生かし、構成を工夫して音楽をつくる。
- (3) イメージに合った音楽をつくるための必要な技能を身に付ける。

4 教材

創作の参考資料としてニコラ＝ド＝スタール作「黄と緑の長方形」の絵画を用いる。
 (抽象画で筆は全く使用せず、ペインティングナイフによるすどいタッチで厚く油絵具が塗られている。)



5 学習指導要領と指導事項と〔共通事項〕の関連及び具体的な学習活動

指導事項	創作イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。	
〔共通事項〕ア イ	テクスチュア 構成	リズム・音色・強弱
具体的な学習活動	・音素材の特徴を感じ取り、構成を工夫しながら音楽をつくる。 ・音素材を生かし、イメージに合った音楽をつくる。	・イメージに合った音楽をつくるため、音素材を探し、リズムや強弱を工夫する。

6 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	①表現したいイメージをもち、音素材の特徴や反復などの構成に関心をもち、音楽表現を工夫して創作に主体的に取り組もうとしている。	①表現したいイメージをもち、楽器を演奏しながら音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら音素材を収集している。 ②表現したいイメージをもち、音色等の音素材の特徴を感じ取り、構成を工夫しながらどのように音楽をつくるか思いや意図をもってしている。	①試行錯誤しながら音楽づくりを行い、イメージに合う音をつくり出すための技能を身に付けている。 ②音色等の音素材や反復などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくらしている。
1時		①	①
2時	①		
3時		②	②

7 題材の指導と評価の計画（3時間扱い）

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
1	<p>○提示された絵画を見て、創作のイメージを広げる。 ・絵画を鑑賞しどのようなことが思い浮かび、どのような音が思い浮かぶかワークシートに記入する。</p> <p>○音素材を探す。 ・教師による即興演奏を聴き、楽器の種類や楽器の演奏方法によって音質や雰囲気が変わることに感じ取る。 ・絵から得たイメージに合う音素材を実際に楽器で音を出し、試行錯誤しながら探す。</p>	<p>○リズム、音色、強弱に着目させる。</p> <p>○マレットの種類、強弱や速度の変化等で音質や雰囲気が変わることを理解させる。 ☆表現したいイメージをもち、楽器を演奏しながら音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら音素材を収集している。 (イ①ワークシート) ☆試行錯誤しながらイメージに合う音をつくるための必要な技能を身に付けている。(ウ① 活動観察)</p>
<p>《評価の工夫》 ・自分が思い浮かんだ音や音楽を収集しワークシートにまとめる。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;"> <p>思い浮かんだ音</p> <p>収集した音や感じた雰囲気</p> <p>機能的な音</p> </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 20px;">←</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《評価のポイント①》 ○試行錯誤しながら収集した音素材と感じ取った特質や雰囲気、更に音や音楽をつくり出すための技能を評価する。 ◎評価方法例 ①ワークシート ②活動観察（試行錯誤しながら音楽をつくるための技能を身に付けているかを評価する。）</p> </div> </div>		
<p>○収集した音素材をもとに各自が2小節の動機をつくる。 ・絵のイメージから感じ取ったリズムや、反復、変化、対照などの構成要素を用いてつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>2小節の動機の例</p> </div> <p>○理論的に考えるのではなく、実際に音を出して聴きながら動機づくりをさせる。 ○音素材とリズムのイメージを大切に、シンプルな動機をつくるよう働きかける。 ○できるだけ音符・休符を用いて記譜させる。</p>		
2	<p>○グループでの作品をつくる。 ・各自がつくった動機を発表し合う。 ・条件にしたがって反復、変化、対照などの構成要素を用いてつくる。 ・楽器の種類、楽器の演奏により音色や記譜の方法（イメージ楽譜等も含む）を工夫する。</p>	<p>【創作の条件】 ○班員全員の動機をすべて使う。 ○動機を反復させたり対照させたりして横につないだり、2つ以上の動機を同時に演奏して縦に重ねたりする。 ○曲の長さは8小節とする。 ○表現したいイメージとつくった音楽の関係を説明できるようにしておく。</p>

イメージ楽譜の例

寒空の中、機械が機械的に一定のテンポで動いている

☆表現したいイメージをもち、音色等の音素材の特徴を感じ取り、構成を工夫しながらどのように音楽をつくるか思いや意図をもっている。(イ② 活動観察 ワークシート)
 ☆音色等の音素材や反復などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。(ウ② 活動観察 ワークシート)

〈評価のポイント②〉

【ワークシート例】
 どのような思いや意図をもって音楽をつくったか工夫した点をまとめよう！

音色	マレットを堅くし暗い感じを出した。
リズム	一定のリズムで機械が動いているような感じを出した。
反復	同じ音楽を、強弱をつけ繰り返すことで迫ってくる感じや恐怖感を出したいと思った。

「ワークシートに書いてある思いや意図」と「演奏としての音」との関連を見取ることが重要である。

〈評価のポイント〉

- 音素材の特徴を感じ取り、反復などの構成を工夫しながらどのように作品をつくったかその思いや意図を評価する。
- 生徒の演奏を通し、音楽表現をするための必要な技能を身に付けているかも評価する。
2つの観点を同時に見取ることができる。
- ◎評価方法例
 - ①ワークシート
 - ②活動観察（試行錯誤しながら音楽をつくるための技能を身に付けているか）

- 3 ・創作した曲の発表会を行う
 ・ワークシートにまとめた内容を発表してから、創作した楽曲の発表をする。

○聴いている生徒には各班の思いや意図と演奏の関連を聴くようにさせ、相互評価を行う。

<事例8> 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して鑑賞する学習を評価する事例（第2学年）

- 1 題材名 楽曲の構造を理解し、オーケストラの豊かな響きを味わおう
- 2 題材について（略）
- 3 題材の目標
 - (1) オーケストラの音色やリズム・旋律・強弱の変化に興味・関心をもち鑑賞の学習に主体的に取り組む。
 - (2) オーケストラの音色やリズム・旋律・強弱の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、作曲者の心情や楽曲を解釈したり価値を考えたりして、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
- 4 教材について
「交響曲第5番 ハ短調」 ベートーヴェン作曲
- 5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕の関連及び具体的な学習活動

指導事項	鑑賞ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。	
〔共通事項〕ア	音色	リズム
イ	拍子	動機
		強弱
		p p f f
具体的な学習活動	・重なり合うように次から次へと表れ、繰り返される動機のリズムの効果を理解する。 ・第1主題と第2主題の雰囲気の違いを感受する。	・動機のリズムを打つ強弱の効果を理解する。

6 評価規準

	ア 音楽への感心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
評価規準	①リズム、構成、強弱を知覚し、その特質や雰囲気を感じ取り、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。	①動機のリズムを知覚し、その効果を感じている。 ②リズム、旋律、構成などと曲想とのかかわりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして交響曲第5番「ハ短調」のよさや美しさを味わって聴いている。
1時	①	①
2時		②

7 題材の指導と評価の計画 (2時間扱い)

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準																		
1	<p>○交響曲第5番 ハ短調の構造を理解する。 ・提示部をリズム・強弱・構成に着目して聴く。 ・聴き取った要素と感じ取った特質や雰囲気をワークシートに記入する。</p> <p>ワークシート例</p> <p>○動機のリズムの特徴を理解する。 ・第1主題の5小節を聴き動機のリズムのみを書き出す。 ○動機冒頭の休符の効果を考える。 ・リズムパターンを変えた数種類の旋律を聴き、印象の違いを感じ取る。 ・動機のリズムの休符の効果ワークシートにまとめる。</p> <p>2 動機の最初に8分休符をつけることでどのような効果が表れるでしょうか。</p> <p>・緊張感を表している ・焦っている様子 ・恐怖感を表している</p> <p>(エ①ワークシート)</p> <p>○作曲家の人生について知り、それによって曲を一層理解する。 ○ベートーヴェン自身が「運命が扉を叩く」と語るとされる動機のリズムと強弱をスコアにマーカーでチェックし、強弱を織り交ぜながら次から次へと表れることを理解する。 ○第1楽章を通して鑑賞する。 ・動機のリズムが生み出す効果に着目して鑑賞する。 ○前時にスコアにチェックした動機のリズムと強弱を確認する。</p>	<p>○音楽を形づくっている要素に着目させて聴かせる。</p> <p>1 音楽の特徴を聴き取り、感じ取った雰囲気を書こう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>要素</th> <th>聴き取った音楽の特徴</th> <th>感じ取った雰囲気</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リズム</td> <td>同じリズムで動いている</td> <td>焦っている感じがする</td> </tr> <tr> <td>強弱</td> <td>力強さと優しさを出している</td> <td>心の動きを表している感じがする</td> </tr> <tr> <td>構成</td> <td>同じリズムが繰り返される</td> <td>何かを訴えている</td> </tr> </tbody> </table> <p>☆主体的に鑑賞する学習に取り組み、リズム、強弱、構成を知覚し感じ取った特質や雰囲気を言葉で表現しようとしている。(ア①活動観察 ワークシート)</p> <p>○旋律の楽譜を示し、繰り返されるリズムパターンに着目させる。</p> <p>○「休符がなく3連符のパターン」「8分の4拍子」などをピアノで実際に聴き、雰囲気の違いを味わわせる。</p>  <p>○動機のリズムによって楽曲が構成されていることを理解させる。 ○積み重なるように強弱を織り交ぜながら表れる動機のリズムを再確認させる。 ○リズムや強弱に着目させ雰囲気が変わったところを理解させる。</p> <p>3 第1主題から第2主題になったとき、どのような変化がありましたか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>音色の違い</th> <th>旋律の違い</th> <th>感じ取った雰囲気</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>まるでやかになった</td> <td>ゆったりになった</td> <td>柔らかい 優しい</td> </tr> </tbody> </table> <p>○楽器の音色の変化で雰囲気が変わったことを理解させる。 ○積み重なるように表れる動機のリズムと強弱の働きが生み出す特質や雰囲気を感じながらリズム打ちと指揮を行わせる。第2主題は柔らかい雰囲気を出すために指揮を行わせる。 ○音色、リズム、旋律、強弱、形式等の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関連に着目させながら楽曲全体を聴かせる。 ☆音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(エ②ワークシート)</p>	要素	聴き取った音楽の特徴	感じ取った雰囲気	リズム	同じリズムで動いている	焦っている感じがする	強弱	力強さと優しさを出している	心の動きを表している感じがする	構成	同じリズムが繰り返される	何かを訴えている	音色の違い	旋律の違い	感じ取った雰囲気	まるでやかになった	ゆったりになった	柔らかい 優しい
要素	聴き取った音楽の特徴	感じ取った雰囲気																		
リズム	同じリズムで動いている	焦っている感じがする																		
強弱	力強さと優しさを出している	心の動きを表している感じがする																		
構成	同じリズムが繰り返される	何かを訴えている																		
音色の違い	旋律の違い	感じ取った雰囲気																		
まるでやかになった	ゆったりになった	柔らかい 優しい																		
	<p>○提示部を聴き第1主題と第2主題の雰囲気の違いを理解する。 ・雰囲気が変わった所を挙手する。ワークシート例 ・雰囲気が変わった第2主題をどのように感じ取ったかワークシートにまとめる。 ・第1主題と第2主題の部分を曲に合わせてリズム打ちをしたり指揮をしたりする。 ・第1主題と第2主題のリズム打ちと指揮を行う。 ○第1楽章全体をオーケストラによる音楽表現の豊かさを味わいながら聴取する。</p> <p>ワークシート例</p>	<p>○楽器の音色の変化で雰囲気が変わったことを理解させる。 ○積み重なるように表れる動機のリズムと強弱の働きが生み出す特質や雰囲気を感じながらリズム打ちと指揮を行わせる。第2主題は柔らかい雰囲気を出すために指揮を行わせる。 ○音色、リズム、旋律、強弱、形式等の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関連に着目させながら楽曲全体を聴かせる。 ☆音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(エ②ワークシート)</p>																		
	<p><評価の工夫></p> <p>・学習したことをもとに自分の考えをまとめる。</p> <p>4 あなたがこの曲で好きなところを2つ以上あげ、その理由を学習したことをもとに具体的にまとめよう。</p> <p>私はこの曲が好きです。その理由は第1楽章全体に表れる「7777」の動機のリズムが弱く優しく物を変えながら表れる所が好きです。そして強く激しい所はベートーベが聴取した前より強いです。第2主題の優しい所は一時の苦しみを表していると思います。私は聴取で楽しんでる時に作曲した第5番は、ベートーベ自身が自分の気持ちを人に伝えるための曲だと思います。</p>	<p><評価のポイント></p> <p>○楽曲全体のまとめの評価である。音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きから生まれる特質や雰囲気を感じながら解釈したり価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして音楽のよさや美しさを味わって聴いているかを評価する。</p> <p>○評価方法例 ワークシートの内容を評価する。知覚した部分を _____ で、感受した部分を _____ で、価値や解釈を _____ で分けると評価しやすい。</p>																		

<事例9> 我が国の伝統音楽の特徴を理解して鑑賞する学習を評価する事例 (第2学年)

1 題材名 箏曲の特徴を味わおう

2 題材について (略)

3 題材の目標

- (1) 音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組む。
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、箏曲の多様性を理解して鑑賞している。(鑑賞の能力)

4 教材

箏曲「六段の調」(八橋検校作曲)

5 学習指導要領の指導事項と【共通事項】の関連及び具体的な学習活動

指導事項	鑑賞イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。
〔共通事項〕ア	音色 速度
イ	間 拍 序破急 音階
具体的な学習活動	・箏の奏法を学習し、その音の変化や音色の違いを感じ取る。 ・序破急や間等を知覚・感受する。 ・我が国の音楽の独特な情緒や雰囲気を感じ、そのよさや美しさを言葉で表す。

6 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
評価規準	①奏法による音の変化に関心を持ち、学習に主体的に取り組もうとしている。	①箏が生み出す音の特質や雰囲気、この曲の特徴を感じながら、箏曲のよさや美しさを味わって聴いている。 ②奏法によって音の変化が異なることを知覚し、そのよさや美しさを味わって聴いている。
1時	①	①
2時		②

7 指導と評価の計画 (2時間扱い)

時	○学習内容 主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
1	○箏について学ぶ。 ○箏のさまざまな奏法を知り、音の変化を学ぶ。	○箏の時代背景や我が国の音楽の文化に触れさせる。 ○美しい音で演奏するためには基礎的な奏法が大切であることや楽器の特性なども触れ、演奏における諸注意も十分に理解させる。 ○「押す」「引く」「揺らす」等の奏法によって、音が変化していることに気付かせる。 ☆奏法による音の変化に関心を持ち、学習に主体的に取り組もうとしている。 (ア① 活動観察、ワークシート) ☆奏法によって音の変化が異なることを知覚し、そのよさや美しさを味わっている。 (エ① ワークシート)

<評価のポイント①>
奏法によって音がどのように変わるのかその変化を聴き取る。
「押し手」「後押し」「ユリ」「突き」「引き色」「合わせ爪」等

【ワークシート例】

いろいろな弾き方を探して、音の特徴をまとめよう。

名称	演奏方法 (右手や左手の使い方)	どのように音が変わるだろう?
後押し	右手で弾いた後、左手で糸を押す	音の余韻の中で、音の高さが上がる
引き色	右手で弾いた後に、左手で糸を引っ張る	音の余韻の中で、音の高さが下がる

弾き方探しを終えての感想を書こう。(略)

2 ○箏曲「六段の調」について学ぶ。

- 箏曲「六段の調」のもつ音楽的な要素や構造を理解する。
- ・奏法による音の変化を聴き取る。
- ・速度の変化を聴き取る。
- ・間を聴き取る。
- 箏曲「六段の調」を鑑賞する。
- ・鑑賞記録ノートに聴いた感想を記入する。

- 作曲者や時代背景、平調子、段物について等の概要をつかませる。
- 前時に学習したした奏法による音の変化を楽曲の中で確認させる。
- 速度の変化を知覚し、序破急について感受させる。
- 規則的な拍の流れに含まれない音の「間」を知覚させ、間が醸し出す雰囲気を感じさせる。
- 普段、自分たちが聴いている音楽と比べて、自分の言葉で書かせる。
- ☆箏が生み出す音の特質や雰囲気、この曲の特徴を感じながら、箏曲のよさや美しさを味わって聴いている。
(エ② ワークシート)

<評価のポイント②>
奏法による音の変化や楽曲の特徴を知覚し、それらが生み出す雰囲気や美しさ及び我が国の音楽の自分にとっての価値を自分の言葉でまとめる。

【ワークシートの設問例】

- ①さまざまな奏法による表現の豊かさについてまとめよう。
- ②速度の変化や間が生み出す楽曲全体の効果をまとめよう。
- ③今まで学習してきた音楽や普段耳にしている音楽との違いや共通点についてまとめてみよう。